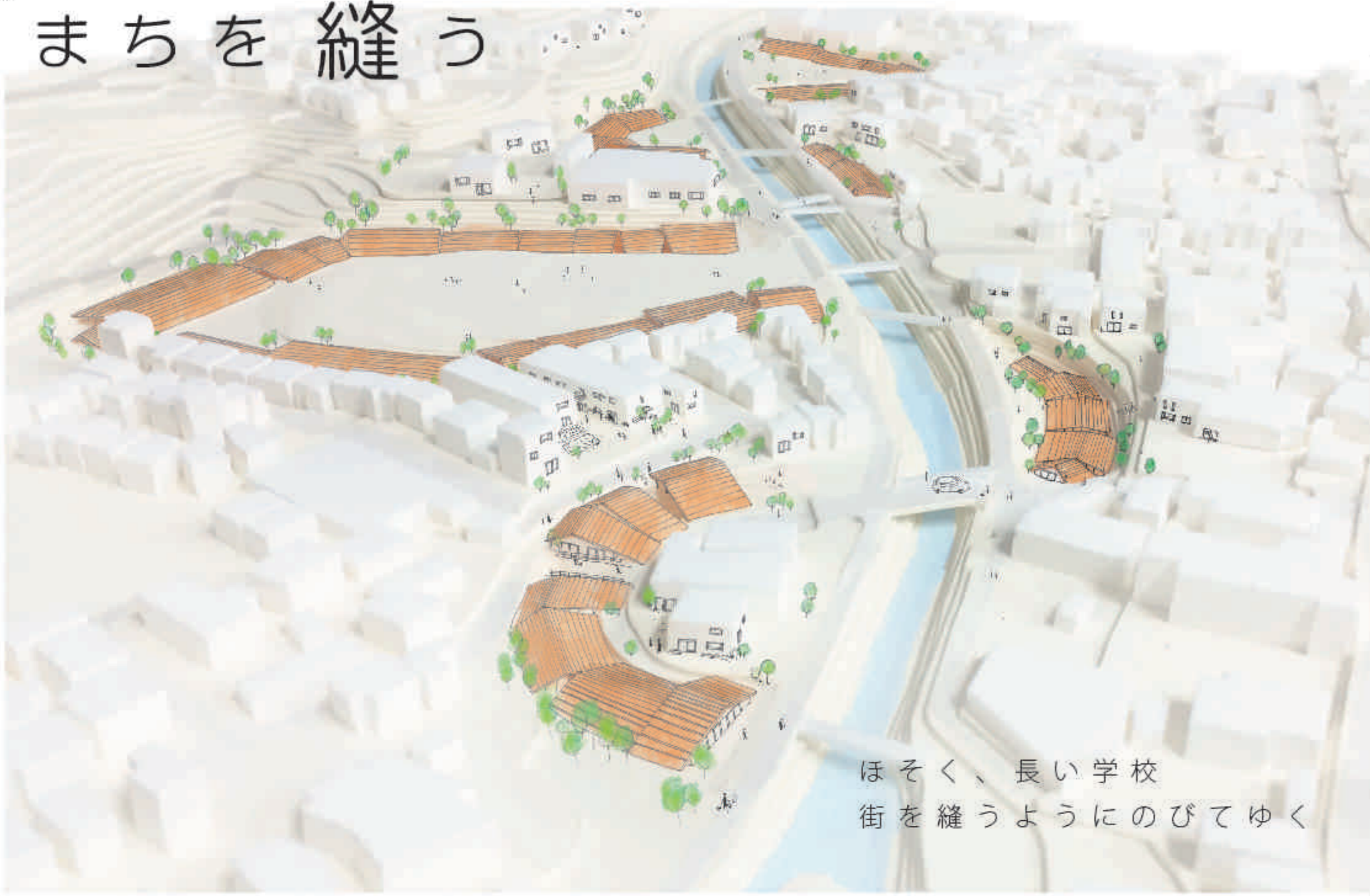


まちを縫う



Site

■ 川の流れ方の変化

1970 2014

2級河川・松尾川の道筋の変化を追う。かつて川は大きく蛇行していたが、治水のためにショートカットされた。現在でも、かつての川の跡がかすかに残っている。市街地化が進む一方で、かつての川と現在の川の間には空白が見られる。

Scale 1:15,000

■ 河川横断面図

河川改修前 松尾川

河川改修後 もり土 松尾川

河川改修による河川断面の変化。かつての川の断面は、自然な断面形状をしていた。

■ 敷地の特性

学校を旧松尾川をなぞるように配置することで生まれる特性。

- 街との接点が多く得られる。
- 対岸の家からの視線による、見守りの関係。
- 校舎が運動場を囲むことで中心性を生む。

見守りの関係

Scale 1:3,000

Zoning

子ども園、小学校、中学校を計画する。教室棟と特別教室棟は分散配置する。細長い学校だが、蛇行した形であるためショートカットができる。縫うような学校の学校は川によって分けられている地域をつなげる。



■ 動線の交差

まちの動線を学校へ、子どもの動線を街へ。

- 街の動線を引き込む。長い学校を横断する。
- 各棟の移動距離を短縮するショートカットコース。家と家の間が学校の廊下になり、子どもたちは街へ降り出す。



Diagram

■ 設計プロセス

新しく川がつくられた。かつての川はもり土されている。

もり土を掘り起こし、かつての川のかたちを取り戻す。

むかしの川の両岸に屋根を架け直す。

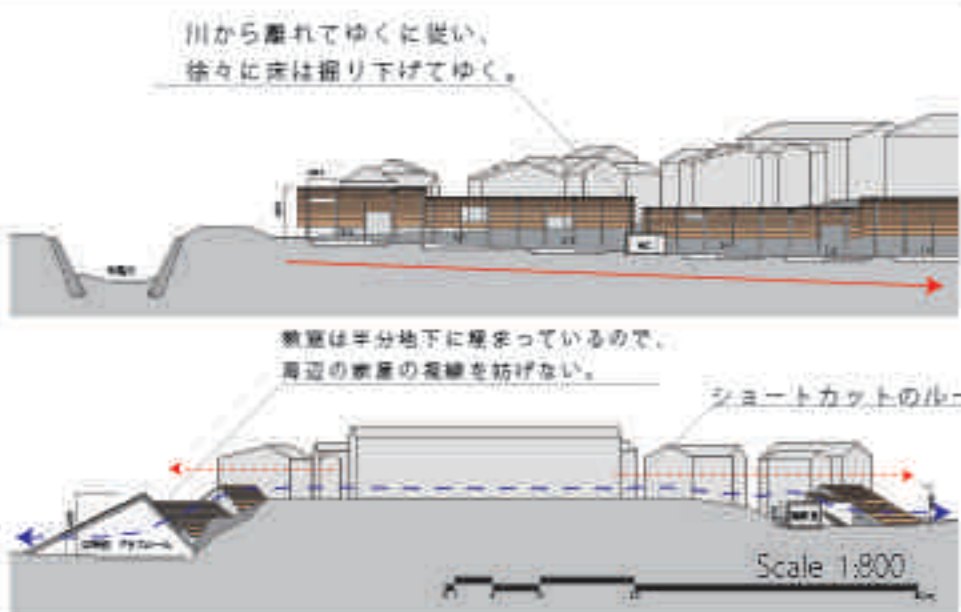
■ クラスルーム

もり土されている旧河川。

1mほど掘り下げ、屋根を架ける。

クラスルーム部分は、さらに掘り下げる。

Section



Plan

教室と特別教室は川を挟んで別の棟に収められている。子どもたちは街の中を移動する。学校が街と密接に関わり、子どもと街、街と子どもが繋がる。学校を通して川の右岸と左岸のまちが縫い合わされる。

